

四半期報告書

(第35期第1四半期)

自 2019年11月1日

至 2020年1月31日

オンラインフホルディング株式会社

(E05277)

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	3
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
3 経営上の重要な契約等	4
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(5) 大株主の状況	5
(6) 議決権の状況	6
2 役員の状況	6
第4 経理の状況	7
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	10
四半期連結包括利益計算書	11
2 その他	17
第二部 提出会社の保証会社等の情報	18

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年3月13日
【四半期会計期間】	第35期第1四半期（自 2019年11月1日 至 2020年1月31日）
【会社名】	ロングライフホールディング株式会社
【英訳名】	LONGLIFE HOLDING Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小嶋 ひろみ
【本店の所在の場所】	大阪市北区中崎西二丁目4番12号 梅田センタービル25階
【電話番号】	(06) 6373-9191
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営本部長 大麻 良太
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区中崎西二丁目4番12号 梅田センタービル25階
【電話番号】	(06) 6373-9191
【事務連絡者氏名】	常務取締役経営本部長 大麻 良太
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第1四半期連結 累計期間	第35期 第1四半期連結 累計期間	第34期
会計期間	自2018年 11月1日 至2019年 1月31日	自2019年 11月1日 至2020年 1月31日	自2018年 11月1日 至2019年 10月31日
売上高 (千円)	3,253,022	3,162,054	13,220,909
経常利益又は経常損失(△) (千円)	△60,471	△149,300	26,233
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失(△) (千円)	△189,229	△193,942	△318,450
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	△200,871	△210,762	△327,329
純資産額 (千円)	2,849,937	2,478,595	2,772,363
総資産額 (千円)	17,137,633	19,604,984	17,437,893
1株当たり四半期(当期)純損失(△) (円)	△18.49	△18.69	△30.91
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	16.6	12.6	15.9

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出の低迷を背景に製造業の生産活動は伸び悩み、個人消費は消費増税に伴う駆け込み需要の反動減などを背景に減少し、景気の足踏み感がみられます。また、世界経済においても、米中の通商問題、不安定な中東情勢や中国で発生した新型コロナウイルスの感染拡大が人と物の動きに負の影響を与え、世界的な景気減速が懸念されることから、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

介護業界においては、超高齢化社会の中で介護や支援を必要とする人口が増加しており、今後も「団塊の世代」が後期高齢者となるなど介護業界は拡大を続けることが見込まれております。

当社グループは、創立以来培ってきた介護業界における実績と、これまで蓄積してきた有料老人ホームの運営ノウハウを活かし、ホームの新設を進めることで体制を強化しており、当期におきましては、新たに首都圏に有料老人ホームを1か所開設いたしました。

このような状況のもと、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は31億62百万円（前年同期比2.8%減）と減収となり、営業損失はホーム介護事業及びリゾート事業における販売計画の未達などにより1億25百万円（前年同期は35百万円の営業損失）となり、経常損失は1億49百万円（前年同期は60百万円の経常損失）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は1億93百万円（前年同期は1億89百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

①ホーム介護事業

ホーム介護事業につきましては、新たに「ロングライフガーデン越谷（埼玉県越谷市）」を開設し、当第1四半期連結会計期間末におけるホーム数は22ホームで居室総数は969室となっております。ホーム介護事業の運営体制の効率アップ並びにブランディング活動等の営業強化により、入居率の引き上げに注力しております。

ホーム介護事業の売上高は11億43百万円（前年同期比0.8%増）、経常損失は1億15百万円（前年同期は78百万円の経常損失）となりました。

②在宅介護事業

在宅介護事業につきましては、当第1四半期連結会計期間末におけるサービス数は128サービスとなっております。各事業所職員の育成充実を図り、訪問介護における特定事業所加算を取得する活動を推進し、事業拠点の収益力の向上に努めております。

在宅介護事業の売上高は14億21百万円（前年同期比2.8%増）、経常損失は0百万円（前年同期は18百万円の経常損失）となりました。

③福祉用具事業

福祉用具事業につきましては、福祉用具の販売・レンタル、住宅改修の専門企業として、お客様の日常生活の自立を支援するサービスを提供しております。

福祉用具事業の売上高は2億83百万円（前年同期比22.0%減）、経常損失は5百万円（前年同期は6百万円の経常損失）となりました。

④フード事業

フード事業につきましては、主に当社グループが運営する有料老人ホーム等に食事を提供しております。また、オリジナル商品の販売等によるグループ外への営業強化に注力することで、ブランド力の向上に努めてまいりました。

フード事業の売上高は22百万円（前年同期比6.0%増）、経常利益は1百万円（前年同期比27.5%減）となりました。

⑤リゾート事業

リゾート事業につきましては、函館、箱根、由布院、石垣島の全国4拠点において会員制リゾートホテルの運営を行っております。

リゾート事業の売上高は32百万円（前年同期比71.3%減）、経常損失は1億3百万円（前年同期は16百万円の経常損失）となりました。

⑥その他

その他につきましては、調剤薬局事業及び医療関連事業を行う連結子会社の「ロングライフメディカル株式会社」、国内外企業への投資及びコンサルタント事業を行う連結子会社の「ロングライフグローバルコンサルタント株式会社」及び「朗楽(青島)頤養運営管理有限公司」の3社により構成されております。

当セグメントの売上高は2億58百万円(前年同期比8.3%増)、経常損失は3百万円(前年同期は0百万円の経常利益)となりました。

(2) 財政状態の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ21億67百万円増加し、196億4百万円となりました。

流動資産につきましては、前連結会計年度末より4億96百万円減少し39億33百万円となりました。その主な内訳は、現金及び預金が3億62百万円、受取手形及び売掛金が88百万円、預け金が52百万円それぞれ減少したことによるものであります。

固定資産につきましては、前連結会計年度末より26億64百万円増加し、156億71百万円となりました。その主な内訳は、リース資産が24億86百万円増加したことによるものであります。

流動負債につきましては、前連結会計年度末より38百万円減少し、71億27百万円となりました。その主な内訳は、短期借入金が1億円増加し、未払法人税等が81百万円減少したことによるものであります。

固定負債につきましては、前連結会計年度末より24億99百万円増加し、99億99百万円となりました。その主な内訳は、リース債務が24億68百万円増加したことによるものであります。

また、純資産は前連結会計年度末に比べ2億93百万円減少し、24億78百万円となり、自己資本比率は12.6%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第1四半期連結累計期間に完成したものは、次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	完成年月
日本ロングライフ(株)	ロングライフガーデン越谷 (埼玉県越谷市)	ホーム介護事業	有料老人ホーム (賃貸物件)	2019年11月

なお、当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,200,000
計	25,200,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年1月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年3月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,190,400	11,190,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	11,190,400	11,190,400	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年11月1日～ 2020年1月31日	—	11,190,400	—	100,000	—	—

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日（2019年10月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

2019年10月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 814,600	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 10,373,500	103,735	—
単元未満株式	普通株式 2,300	—	—
発行済株式総数	11,190,400	—	—
総株主の議決権	—	103,735	—

(注) 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,400株（議決権14個）含まれております。

②【自己株式等】

2019年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合 (%)
(自己保有株式) ロングライフホールディング 株式会社	大阪市北区中崎西二丁目 4番12号 梅田センタービル25階	814,600	—	814,600	7.28
計	—	814,600	—	814,600	7.28

(注) 2020年1月31日現在の自己株式数は816,800株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年11月1日から2020年1月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年11月1日から2020年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,243,637	880,704
受取手形及び売掛金	1,660,752	1,572,734
たな卸資産	170,761	164,679
預け金	※1 1,055,158	※1 1,002,634
その他	323,239	333,186
貸倒引当金	△22,784	△20,096
流動資産合計	4,430,764	3,933,843
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	8,617,594	8,694,039
減価償却累計額	△3,120,416	△3,197,795
建物及び構築物（純額）	5,497,178	5,496,243
車両運搬具	16,606	16,606
減価償却累計額	△13,289	△13,634
車両運搬具（純額）	3,316	2,972
工具、器具及び備品	791,546	804,473
減価償却累計額	△545,540	△546,837
工具、器具及び備品（純額）	246,006	257,636
土地	3,679,322	3,679,322
リース資産	352,437	2,839,009
減価償却累計額	△321,682	△324,787
リース資産（純額）	30,755	2,514,222
建設仮勘定	2,436,186	2,649,392
有形固定資産合計	11,892,766	14,599,789
無形固定資産		
のれん	29,174	27,388
その他	73,056	75,847
無形固定資産合計	102,230	103,235
投資その他の資産		
投資有価証券	106,433	80,715
関係会社株式	5,000	5,000
差入保証金	710,878	695,688
長期前払費用	43,324	41,279
繰延税金資産	20,326	16,345
その他	126,168	129,086
投資その他の資産合計	1,012,131	968,115
固定資産合計	13,007,128	15,671,140
資産合計	17,437,893	19,604,984

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	182,575	159,482
短期借入金	170,000	270,000
1年内返済予定の長期借入金	438,660	438,660
リース債務	11,735	27,862
未払金	346,976	312,524
未払費用	586,612	590,373
未払法人税等	127,359	45,657
前受金	5,052,702	5,065,127
賞与引当金	107,554	79,445
契約解除引当金	15,279	16,337
資産除去債務	3,756	3,756
その他	122,511	117,936
流動負債合計	7,165,721	7,127,163
固定負債		
長期借入金	7,237,775	7,266,910
リース債務	19,021	2,487,176
繰延税金負債	16,982	16,780
退職給付に係る負債	114,730	118,131
資産除去債務	99,349	99,690
その他	11,948	10,536
固定負債合計	7,499,807	9,999,225
負債合計	14,665,529	17,126,388
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	10,982	10,982
利益剰余金	2,845,366	2,568,417
自己株式	△213,273	△213,273
株主資本合計	2,743,075	2,466,126
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,549	14,057
為替換算調整勘定	△1,261	△1,588
その他の包括利益累計額合計	29,288	12,469
純資産合計	2,772,363	2,478,595
負債純資産合計	17,437,893	19,604,984

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)
売上高	3,253,022	3,162,054
売上原価	2,618,332	2,545,095
売上総利益	634,689	616,959
販売費及び一般管理費	670,023	742,185
営業損失(△)	△35,334	△125,226
営業外収益		
受取利息	24	119
受取配当金	637	757
金利スワップ評価益	—	1,378
その他	6,001	3,267
営業外収益合計	6,664	5,522
営業外費用		
支払利息	21,034	24,051
支払手数料	6,647	4,966
その他	4,120	578
営業外費用合計	31,801	29,596
経常損失(△)	△60,471	△149,300
特別利益		
投資有価証券売却益	—	20,285
特別利益合計	—	20,285
特別損失		
減損損失	※ 94,186	—
投資有価証券評価損	5,323	—
固定資産除却損	3,121	4,310
賃貸借契約解約損	—	1,639
その他	700	—
特別損失合計	103,330	5,949
税金等調整前四半期純損失(△)	△163,801	△134,965
法人税、住民税及び事業税	25,609	46,489
法人税等調整額	△182	12,487
法人税等合計	25,427	58,977
四半期純損失(△)	△189,229	△193,942
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△189,229	△193,942

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)
四半期純損失(△)	△189,229	△193,942
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△12,230	△16,491
為替換算調整勘定	587	△327
その他の包括利益合計	△11,642	△16,819
四半期包括利益	△200,871	△210,762
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△200,871	△210,762
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 預け金の内訳は次のとおりであります。

前連結会計年度(2019年10月31日)

預け金1,055,158千円のうち225,527千円は、株式会社レーサムとの有料老人ホーム「ロングライフ神戸青谷」の賃貸借契約、829,023千円は、株式会社朝日信託との入居一時金保全信託契約に関わるものであります。

当第1四半期連結会計期間(2020年1月31日)

預け金1,002,634千円のうち214,144千円は、株式会社レーサムとの有料老人ホーム「ロングライフ神戸青谷」の賃貸借契約、787,890千円は、株式会社朝日信託との入居一時金保全信託契約に関わるものであります。

2 偶発債務等

(訴訟等)

当社の連結子会社であるロングライフメディカル株式会社は、2019年7月23日付で株式会社TMコンサルティングより、新店舗用の建物賃貸借契約を入居前に解除したことに關して違約金請求訴訟(請求金額36,000千円)を大阪地方裁判所に提訴され、現在係争中であります。これに対して、当社グループは裁判において主張を適切に展開していく予定であり、現時点では当該訴訟が当社グループの経営成績及び財政状態に与える影響の予測は困難であります。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 減損損失

当社グループは以下のとおり減損損失を計上しております。

前第1四半期連結累計期間(自2018年11月1日至2019年1月31日)

(1) 減損損失を認識した主な資産及び経緯

日本ロングライフ株式会社の運営する有料老人ホーム等2施設について、今後の事業環境等を踏まえ、当該固定資産に係る回収可能性を検討した結果、87,132千円の減損損失を計上いたしました。また、ロングライフメディカル株式会社の運営する調剤薬局1店舗について、事業運営の見直しにより店舗運営を終了することとなり、7,053千円の減損損失を計上いたしました。その内訳は、建物及び構築物95,756千円、工具、器具及び備品2,690千円、長期前払費用114千円及び資産除去債務の戻入4,375千円であります。

(2) 資産グルーピングの方法

当社グループは、事業区分をもとに、概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として、主に事業所を単位としてグルーピングを行っております。

(3) 回収可能価額の算定方法

回収可能価額は、正味売却価額によっておりますが、他への転用が困難であるものについては零円としております。

当第1四半期連結累計期間(自2019年11月1日至2020年1月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)
減価償却費	112,026千円	107,401千円
のれんの償却額	1,190	1,786

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年12月26日 取締役会	普通株式	81,878	8.0	2018年10月31日	2019年1月30日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年12月13日 取締役会	普通株式	83,006	8.0	2019年10月31日	2020年1月15日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	ホーム 介護	在宅介護	福祉用具	フード	リゾート	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,134,660	1,382,986	363,073	21,610	111,858	3,014,189	238,832	3,253,022
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	900	818	23,522	163,788	340	189,369	3,688	193,058
計	1,135,560	1,383,804	386,596	185,399	112,199	3,203,559	242,521	3,446,081
セグメント利益又は 損失(△)	△78,812	△18,014	△6,284	2,688	△16,248	△116,671	610	△116,060

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、調剤薬局事業、医療関連事業、投資及びコンサルタント事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△116,671
「その他」の区分の損益	610
未実現利益の調整額	35
全社損益(注1)	56,354
その他(注2)	△801
四半期連結損益計算書の経常損失(△)	△60,471

(注1) 全社損益は当社におけるグループ会社からの経営指導料収入及びグループ管理に係る費用であります。

(注2) その他は主に報告セグメントに帰属しない会社(持株会社である当社)に対する取引高の消去であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間にて、ホーム介護事業において87,132千円の減損損失を計上しており、また、その他セグメントのうち調剤薬局事業において7,053千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

その他セグメントのうち調剤薬局事業において、ロングライフメディカル株式会社が株式会社ユウシンメディックの調剤薬局事業を吸収分割により承継したことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては35,724千円であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2019年11月1日 至 2020年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	ホーム 介護	在宅介護	福祉用具	フード	リゾート	計		
売上高								
外部顧客への売上高	1,143,505	1,421,762	283,140	22,916	32,071	2,903,396	258,657	3,162,054
セグメント間の内部売上高又は振替高	73	1,013	14,700	161,937	429	178,155	1,403	179,558
計	1,143,579	1,422,776	297,840	184,853	32,501	3,081,551	260,061	3,341,612
セグメント利益又は損失(△)	△115,594	△183	△5,025	1,949	△103,791	△222,645	△3,326	△225,971

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、調剤薬局事業、医療関連事業、投資及びコンサルタント事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	△222,645
「その他」の区分の損益	△3,326
未実現利益の調整額	35
全社損益(注1)	76,485
その他(注2)	150
四半期連結損益計算書の経常損失(△)	△149,300

(注1) 全社損益は当社におけるグループ会社からの経営指導料収入及びグループ管理に係る費用であります。

(注2) その他は主に報告セグメントに帰属しない会社（持株会社である当社）に対する取引高の消去であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年11月1日 至 2020年1月31日)
1株当たり四半期純損失(△)	△18.49円	△18.69円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(千円)	△189,229	△193,942
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失(△)(千円)	△189,229	△193,942
普通株式の期中平均株式数(株)	10,234,795	10,374,625

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

(1) 決算日後の状況

該当事項はありません。

(2) 配当決議にかかる状況

2019年12月13日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

- ① 配当金の総額……………83,006千円
- ② 1株当たりの金額……………8円00銭
- ③ 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………2020年1月15日

(注) 2019年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年3月12日

ロングライフホールディング株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 坂本 潤 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古田 賢司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているロングライフホールディング株式会社の2019年11月1日から2020年10月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年11月1日から2020年1月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年11月1日から2020年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ロングライフホールディング株式会社及び連結子会社の2020年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年3月13日
【会社名】	ロングライフホールディング株式会社
【英訳名】	LONGLIFE HOLDING Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小嶋 ひろみ
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	大阪市北区中崎西二丁目4番12号 梅田センタービル25階
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長小嶋ひろみは、当社の第35期第1四半期（自2019年11月1日 至2020年1月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。